

宇和島市地域調査研究事業 課題提案書

年度	令和3年度	No.	1
テーマ	被災後のコミュニティの形成とNPO等民間団体の見守り活動の推進		
提案者	組織・部署 の名称	宇和島市総務企画部 市長公室現地支援班	
	所在地	宇和島市曙町1番地	
(1) 課題の 内容	<p>平成30年西日本豪雨発生後、一定程度は住家の再建は完了しつつあるが、大規模な被害のあった地域では、コミュニティの再生とそこに住む被災者の見守り活動が課題であり、また移転再建した被災者においても、新たな生活拠点での生活にて心身、経済面の不安を抱えている被災者も出ており、再建後の生活支援を原状復帰ではなく、よりよい暮らしの実現に向けてどう進めていくのかが課題となっている。</p> <p>さらには災害以前から潜在化していた課題が災害によって顕在化、加速化し、被災者を取り巻く環境が大きく変化しはじめたことで、地域全体への支援が必要となっている。</p> <p>地域支え合いセンターを中心に、被災者の見守りを実施しているが、よりよい暮らしを実現するためには長期にわたる支援が求められる。さらに、様々な立場の被災者がいる中で、市の支援制度終了後も民間団体等で被災者それぞれに寄り添った見守り活動を継続していくための、支援方法やスキル、体制が必要となっている。</p>		
(2) 提案背景 ・現況	① 構成員	地域支え合いセンター、宇和島NPOセンター、もみの木、NPO団体等	
	② 取組箇所	宇和島市内の被災地一円	
	③ 取組状況	<p>1. 市が被災直後から開催してきた「生活再建会議」により、被災者の再建支援を①住居の再建「新生活再建プログラム」②見守り体制の構築を「地域つながり新生活見守りプログラム」により実施中。</p> <p>2. 「被災者見守り・相談支援事業」を宇和島市社会福祉協議会へ委託し、地域支え合いセンターやNPO団体等にて相談会や見守り支援を実施中。</p>	
	④ その他	市、社協、NPO等が災害支援の情報共有する「牛鬼会議」を開催しており、被災者のニーズを把握し、支援制度やサロンの情報を支援団体同士で共有し、連携した支援を実施中。	
(3) 大学等に 求める 研究成果	<p>支援体制は構築されつつあるが、被災者の抱える問題は様々であり、公的支援の限界が見えてきている。</p> <p>ついては、調査・研究の実施及び当該調査結果のフィードバックにより、公的支援終了後も長期的に対応可能な支援体制構築の一助となるものを期待する。</p>		
(4) 期待する 効果	<p>平成30年西日本豪雨における被災者のニーズに沿った、長期的な支援の展開だけでなく、当該研究成果を今後予想される南海トラフ大地震等の災害発生時における「くらし」に関する支援の参考事例としての活用が見込まれる。</p>		